

ひやくづかすみよし

## 百塚住吉D遺跡発掘調査現地説明会資料

1. 調査原因 県営基幹農道呉羽和合4期地区整備事業に伴う発掘調査
2. 調査面積 平成23年度：493㎡
3. 調査地 富山市寺島地内
4. 調査期間 平成23年度：平成23年7月12日～9月末（予定）
5. 事業主体 富山県（農林水産部農村環境課、富山農林振興センター農村整備課）
6. 調査主体 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター
7. 調査機関 日本海航測株式会社、応宰工業株式会社

### 8. 調査の経緯とこれまでの調査について

- ①平成16～18年度：「八町II遺跡」の発掘調査（5,700㎡）を実施し、古墳時代前期（4世紀）、古墳時代中期（5世紀）、室町時代（14～15世紀）、江戸時代（16世紀）の4つの時期の集落跡を確認しました。
- ②平成21年度：「八ヶ山A遺跡」の発掘調査（285㎡）を実施し、鎌倉時代（13～14世紀）の溝跡や井戸跡がみつかりました。
- ③平成22年度：「百塚住吉D遺跡」の発掘調査（900㎡）を実施しました。奈良時代後期～平安時代前期の大溝1条や溝12条、土坑、ピットなどがみつかりました。他に中世～近世の井戸が2基ありました。西側の調査区（2区）で発掘された大溝は幅6.2～7.8m、深さ0.9～1.1m、延長約23mを測り、北から南に向かって流れていました。その他の溝は幅0.4～1.7mを測ります。東側の調査区（1区）では方形や長方形の土坑11基や溝1条がみつかりました。一方、今年度調査区でみつかった建物群と1区でみつかった土坑や溝の軸方向が揃うことから、関連のある遺構群と推測されます。

### 9. 百塚住吉D遺跡の立地と歴史

遺跡は射水平野東端部、神通川の旧流河道左岸の河岸段丘上（標高7～8m）に立地します。

周辺は、呉羽丘陵を中心に、旧石器～近世までの遺跡が確認され、県内でも遺跡の密集地の一つとして数えられています。

本遺跡では、平成8年と16年に宮尾地内で個人住宅建設に先立つ発掘調査が実施されました。奈良時代の集落を中心に、縄文時代から平安時代までの土器などが出土しました。

本遺跡の立地する富山市北西部には古代射水郡寒江郷があったと推測されています。寒江郷は天平宝字4（752）年10月18日の越中国牒（正倉院文書）に「射水郡寒江郷戸主三宅黒人



百塚住吉D遺跡と周辺の遺跡

戸牒」とあり、8世紀中頃には存在していました。

### 10. 発掘調査の成果

今年度の発掘調査では、奈良時代後期～平安時代前期の掘立柱建物3棟、大型土坑2基、竪穴住居1棟、土坑、溝、畠跡、柵列などがみつかりました。

**竪穴住居** 大型土坑に切られ、それより古い時期に営まれた住居で1辺が6mを測る方形を呈します。東寄りに焼土や土器が集中し、カマドがあったことが分かります。住居内に焼土を含む円形土坑があり、何らかの作業を行っていたようです。

**掘立柱建物** SB01（梁行2間、南北5m）は調査区東端でみつきり、調査区外に延びる建物と推測されます。SB02（梁行2間×桁行3間、東西4m×南北5m）とSB03（梁行2間×桁行4間、南北5m×東西8m）の大小2棟発掘されました。

**大型土坑** 掘立柱建物と畠跡の間に位置する長方形を呈する土坑で、2条東西に並列しています。西側（SX07）は長さ5.3m、幅2.2m、深さ0.8mを測ります。東側（SX08）は、残存長4.4m（推定復元長5.2m）、幅1.8m、深さ0.4mを測ります。いずれも黄色と黒色のブロック状の土で埋め戻されていました。SX07の底部付近に黒灰色の粘質土が薄く堆積していました。いずれも床面は南から北へ2～3度傾斜していました。SX07の東側には2間分の柱列（柵列）がみつかりました。

これらの遺構は、掘立柱建物と畠跡の間に軸方向を揃えて位置しています。特にSX07は掘立柱建物SB02に隣接し、東側でみつかった柵列との関係も注目されます。この時期、県内でこのような建物跡に付随、あるいは近接して形成された大型土坑はみつかりません。大きさから推測されるものとして、厩舎（馬小屋）や貯蔵穴、水利施設などが考えられます。一方、昨年度の調査区内からは、大型哺乳類の骨片が出土していました。当時の大型哺乳類としては牛か馬が推測されます。よってこの大型土坑は深さや規模などから馬小屋などとして利用されていた可能性が高いと考えられます。

**畠跡** 調査区東寄りで南北方向に細長い溝状の遺構が5条以上みつかりました。短いもので約1.5m、長いもので約8mを測ります。耕作に伴う畝を作る際に掘り起こされた溝と推測されます。畝状遺構とも言われます。溝の南には東西方向の幅0.8～1.0m、深さ0.4mの用水路とみられる水路もみつかりました。

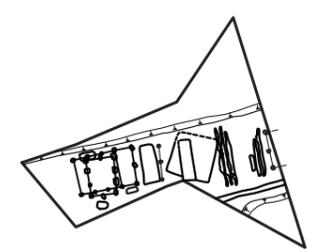
### 11. まとめ

本遺跡は古代射水郡寒江郷の東端部に位置する集落跡です。寒江郷の中心的な集落として8世紀前半には南西の台地上に長岡杉林遺跡が営まれます。8世紀後半以降は、北側に広がる平野部の開発や耕作に携わるため、集落が平野に近い位置に移動したとみられます。百塚住吉D遺跡も呉羽丘陵北端の台地と平野の境に位置し、寒江郷の一集落として平野部の開発に携わった人々が集落を形成していたと推測されます。中世以降は、西側の平野部に京都下鴨社領荘園「寒江荘」との関連が注目される八町II遺跡が営まれ、その前身となる古代集落がこの地に成立していたとみられます。

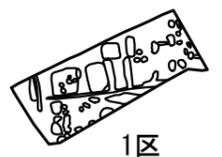
一方、遺跡は旧神通川の河岸段丘上に位置し、対岸は新川郡となります。大型土坑が馬小屋としたら、対岸の新川郡へ渡る射水郡側最後の集落として、耕作以外にも人や物資を運ぶための馬がいたことも考えられます。



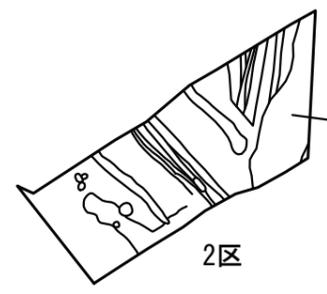
平成22年度 発掘調査区



平成23年度 発掘調査区

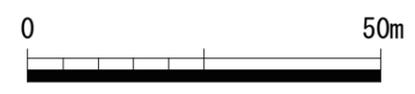


1区



大溝

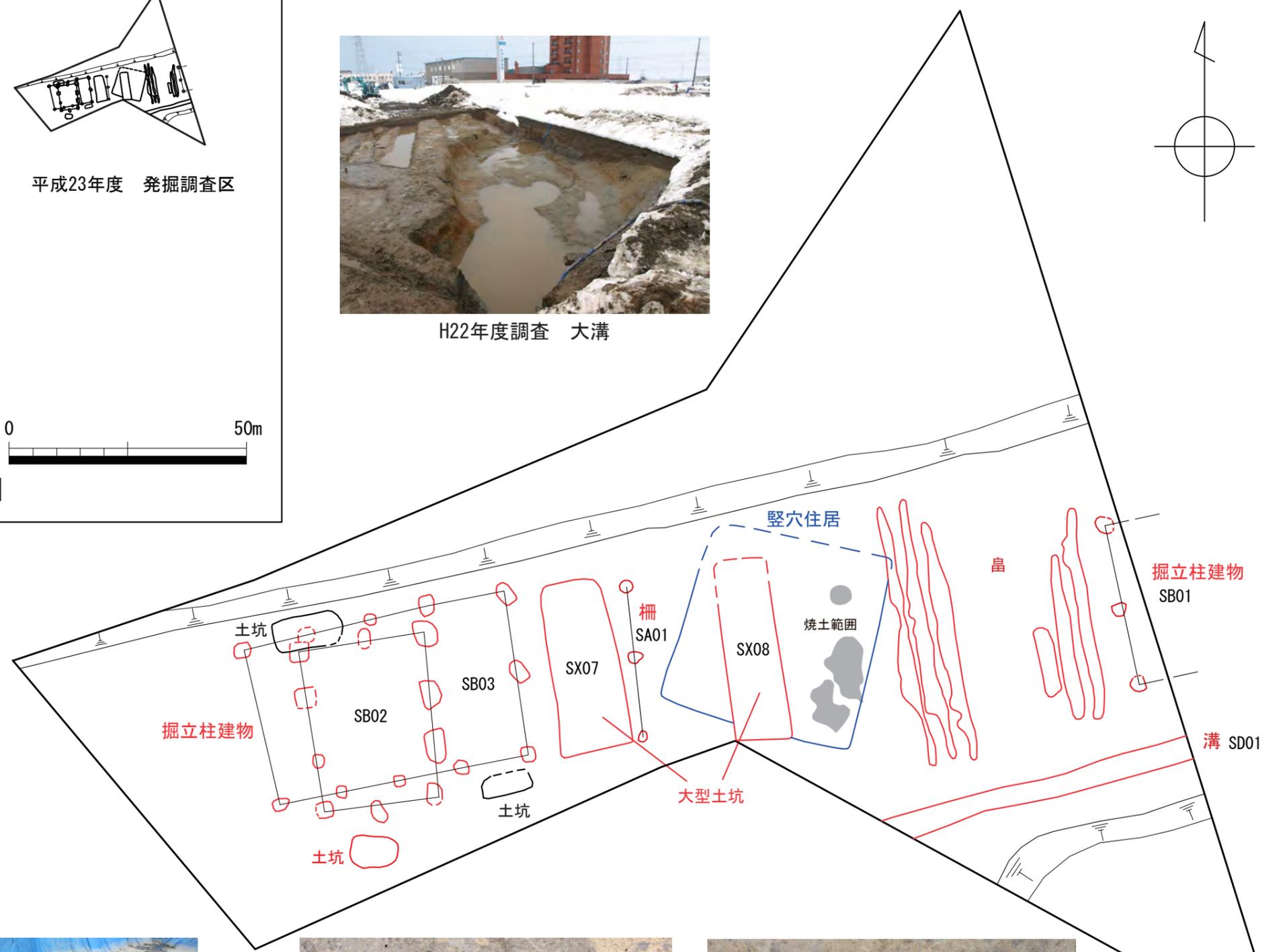
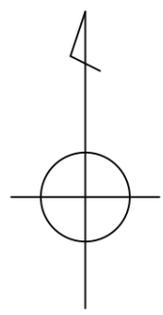
2区



百塚住吉D遺跡調査区位置図



H22年度調査 大溝



掘立柱建物



SX07



SX08



SB03出土土器 (土師器)



SD01出土土器 (須恵器)

百塚住吉D遺跡主要遺構配置図

